

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	C	配分額	550,000 円
研究課題	東日本大震災の多重被害下における学校保健・学校安全の支援課題に関する研究 —高校生と養護教諭に関する調査から—		

研究代表者

氏名 朝倉 隆司	所属 芸術スポーツ科学系講座	職名 教授
-------------	-------------------	----------

研究分担者

氏名 竹鼻ゆかり	所属 芸術スポーツ科学系講座	職名 教授
笹原和子	教育学研究科修士課程	大学院生

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

重点研究費の助成を受けて、3つの活動を行った。第1に、「東日本大震災後の学校安全・学校保健と子どもの健康を考える」を3人の講師を招いて9月3日に実施し、40名を越える現養護教諭、大学院生、および学部学生が参加し、岩手県、宮城県、福島県における被災下での生徒、教員の健康と安全に関する実態を知り、学校保健、学校安全に関わる教訓、今後の課題について討議を行った。講演のタイトルは、「福島県いわき市の高校生のメンタルヘルスや避難した学校の事例について」、「東日本大震災を潜り抜けて」、「東日本大津波被災から学校防災の「常識」を問い直す」であった。

この震災フォーラムに前後して、福島県を中心に、3名の養護教諭、3名の校長にインタビューを行い、震災当時から振り返ってもらい、今回の震災でどのような体験をしたかを尋ねた。そのインタビューから、災害時に児童生徒を引き渡すことの問題性、県職員としての教員の立場と家族を持つ教員個人の立場のジレンマ、サテライト校として間借りや分散する学校の教員・校長・養護教諭の立場の難しさややりがいの喪失、転出した生徒・転々とする生徒の問題、県からの情報伝達の悪さ、ばらばらとなった学校のアイデンティティと存続の問題、学校が避難所として指定されることから起きた現実の困難、国の復興計画と地域の事情とのギャップなどの問題点を聞き取ることができた。

これらのインタビューと学校での参加観察を踏まえて、2つの高等学校でアンケート調査を実施した。まず、1校では、東日本大震災により高校生が体験した身近な地域社会・生活環境の変容とその健康影響を明らかにするための調査を実施した。調査は、高校生(940名)を対象に自記式質問紙で2回縦断的に調査し、さらに1・2年生(610名)を対象に地域社会・生活環境の変容や影響について自由記述による調査を実施した。まず、被害のパターンは、本地震のみ(50.3%)、地震と誘発地震(16.0%)、地震と津波(13.3%)、地震・津波・誘発地震(10.8%)、地震・津波・原発(9.6%)であり、被害の程度は、なかった(31.2%)、少しあった(58.7%)、かなりあった(5.6%)、非常にあった(3.2%)であった。また、縦断な比較の結果では、睡眠の問題、体調の問題、不安や恐怖に関する問題の得点は、4月に比べて7月では有意に改善し、症状が軽減していることが示された。自由記述による地域・家庭・学校生活における被害の内容や回復の状況についても、質的分析を行っている。

もう、1校では東日本大震災後から現在までに高校生が体験した出来事と健康についてアンケート調査を実施した。在籍生徒676人に対して、被災状況、震災をきっかけにした体験や変化、ソーシャルサポート、人々のつながり、精神・身体症状などを調査した。被害のパターンは、津波(3.4%)、地震(19.5%)、原発(5.0%)、津波・地震(14.0%)、津波・原発(1.1%)、地震・原発(19.4%)、津波・地震・原発(32.0%)、特になし(5.6%)であった。被害の大きさは、全くない(7.2%)、あまりなかった(38.8%)、やや大きかった(32.1%)、非常に大きかった(22.0%)であり、約半数が大切な人・ペットの喪失を経験しており、およそ4分の1が健康の悪化を経験していることが明らかになった。

現在は、アンケート調査の概要を調査協力校にフィードバックし、さらに詳しい分析を行っているところである。

研究成果発表方法

研究代表者、研究分担者、研究協力者の共同研究（朝倉、竹鼻、笹原、志村）として「高校生が体験した東日本大震災による地域社会や生活の変容と健康への影響」「東日本大震災後、高校生が体験した出来事と健康」に関する口頭発表を、2012年7月の日本健康教育学会にて口頭発表を行う予定である。また、朝倉、笹原は2012年8月に「Experience of the 3.11 disaster and mental health among adolescents in Fukushima, Japan」を Disaster, society, and mental health of the Research Committee 49, Sociology of Mental Health and Illness, ISA 2nd Forum in Buenos Aires にて発表する予定である。